



ラッキーカレーをよんで

南帷子小学校長 堀田 誠

右の表は、4月に6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における児童質問紙の結果です。この数値から「国語嫌いの子ども」が多くなっていることが分かります。活字離れからなのかと、子どもの読書量【表2】を調べました。この結果からは、南帷子小の子は、よく読書をしていることが分かります。6年生の子ども

【表1】	R 3 (全国比)	R 4 (全国比)
国語の勉強は好きである。		
※当てはまる	15.2(-7.5)	6.7(-16.7)
※当てはまる+どちらかといえば、当てはまる	34.8(-23.6)	35.0(-24.2)
算数の勉強は好きである。		
※当てはまる	30.4(-10.1)	35.0(-1.2)
※当てはまる+どちらかといえば、当てはまる	56.5(-11.3)	56.7(-5.8)

【表2】	R 4 (全国比)
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	
※1時間以上	23.3(+6.0)

に聞いてみました。返ってきた答えは、「書くのが面倒」「漢字を覚えるのが面倒」でした。確かに昔と比べ、「字を書く」という作業はめっきり少なくなりました。書くことで一番困るのは、「何を書けばよいのか分からない（思い浮かばない）」ということです。書くことも表現力の一つです。いつの間にか「面倒」という気持ちさが表現力・創造力を無くしているのかもしれない。

右は、南帷子小1年生の読書感想文です。この感想文をふとした時に読みましたが、読んでいるこちらが思わず微笑んでしまい、心がほっこりしました。創造力豊かで、この本を読んでみたくなるような表現力があります。このような表現力・創造力は、未来を生き抜くためには必要な力であり、笑顔の“もと”かもしれません。

「読書の秋」がやってきました。10月は「スポーツの秋」でもあります。今年は、数年ぶりに全校児童による運動会を予定しています。「実りの秋」になりそうな予感です。



プラタナスの木も色づきました

～ラッキーカレーをよんで～

「おい、なんだあいつは？」「あやしい、あやしすぎる！」おきゃくさんがびっくりするところが、ぼくはいちばんおもしろくて、だいすきです。このはなしは、カレーがカレーをつくるおはなしです。おもしろいので、みんなにおすすめしたいとおもいました。

ふしぎにおもったことがふたつあります。ひとつめは、カレーがかぶっているぼうしにカレーがつかないのかな？とおもいました。ふたつめは、どうやってあまいカレーをつくるのかな？とおもいました。もしカレーやさんでこのカレーにあえたらきいてみたいです。そして、「おまえは、ペコペコさんにいたカレーだな！」といたたいです。

このほんをよんで、ぼくははじめて「らっきょう」をしりました。らっきょうは、カレーといっしょにたべるとおいしいつけものです。かたちはたまねぎににています。なんだかへんなあじがしてそうなきがするけど、ぼくもこんどらっきょうをたべてみたいです。ぼくはチーズいりカレーがだいすきです。

このカレーやさんはかんばんもおもしろいです。カレーがカレーをつくっていて、「ラッキーカレー」としゃべっているかんばんです。ぼくもこのカレーやさんにいつかみたいとおもいました。きっと、「ほかのおきゃくさんもカレーがカレーをつくってる？」「いったいどういうことだ？」「へんなかれーだなあ」というとおもいます。

ぜひ、みんなもこのほんをよんで、わらってください。よみたいひとは、※※※※※のおうちにきてください。ばしょは、※※※、※ちようめ※ばんちです。おしまい。